

明治・大正期における日本人の r 化音の学習

The Learning of *rhyme of er* by Japanese in Meiji and Taisho periods

王 雪*

WANG Xue

(要旨)

r 化語は北京語の特色として、近代日本の北京官話教育時期に日本人によって学習された。『語言自邇集』は r 化語は北京語に多いと指摘している¹。陳明娥 (2014) は日本の明治時期北京官話教材の語彙の特色の 1 つは、r 化語が豊富に収録されていることであると論証した²。しかし、明治・大正期における日本人の r 化音に対する認識についての研究はなされてこなかったのが現状である。

r 化音への認識について、筆者が調べたところ、意外にも言語学上の規則に従っている精密さがみられる。そのうち、『日漢英語言合璧』(鄭永邦³・呉大五郎⁴, 1888) の r 化語についての記述と注音上の様々な工夫は、その時期においては先駆的であったといえる。

本論は、『日漢英語言合璧』を主に、明治・大正時代の 13 点の北京官話学習書に記されている r 化音に関わる記述を考察した。結果的に、大部分の日本人の r 化語と r 化音に対する認識における科学性が乏しかった。韻尾の条件による r 化の音交替は明治・大正時代の日本人がまだ踏み込んでいなかった未知の領域であろう。しかし、『日漢英語言合璧』はほぼ完璧に発音を表しうる仮名表記システムをもち、r 化音と音交替に対する科学的な認識は、当時最高の位置付けがなされる。

はじめに

r 化語とは、中国語において「兒」を語尾に附加することによって語末に捲舌音化が起こる一音声現象であり、特に北京語の顕著な特色とされている。「兒」は単独の音節とはならず、直前の音節と併せて 1 音節を構成する。

中国では r 化音は明代中期から生じ、明代後期に多用されてきた。清末の北京語で r 化語が急増し普及されることになった⁵。現代まで、r 化語は北京語の顕著な特色とされている。r 化語は文語より口語で頻繁に使用さ

れ、近代日本の中国語教育界では会話が重視されていたので、r 化語は主たる学習対象になった。これについて、1867 年の『語言自邇集』は r 化語は北京語に多いと指摘している。陳明娥 (2014) は、14 点⁶日本の明治期の北京官話教材を取り上げ、それらに収録している膨大な語彙の性質と表現を考察してから、北京官話教材の語彙の特色の 1 つは r 化語が豊富であることを論証した⁷。しかし、韻母における複雑な音交替という弱点がある r 化音に対して日本人はどのように対応したのであろうか。

北京官話教材に載せられた r 化語は、清末

* 山口大学大学院東アジア研究科 (The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University)

の北京語の r 化語の原型をそのまま残しており、日本人の r 化語に対する認識を反映している。特に、多くの教材は発音を表記するので、音声学などの専門書があまりなかった時代に、北京方言や音声の学習様相を研究する上で極めて参考価値の高い資料である。残念なことに、北京官話教材を資料として、その価値を発掘した研究は非常に希少であり、明治・大正期における日本人の r 化音に対する認識についての研究はなされてこなかったのが現状である。

r 化音への認識について、筆者が調べたところ、意外にも言語学上の規則に従っている精密さがみられる。そのうち、『日漢英語言合璧』の r 化語についての記述と注音上の様々な工夫は、その時期においては先駆的であったといえる。呉菲 (2007)⁸は『日漢英語言合璧』を取り上げ、教育史の一端として『日漢英語言合璧』の語音系統と教育方法を明らかにしてみたが、声母、韻母の仮名表記の仮名表記の例をあげず、不明なところや詳細さに欠けるところがあり、r 化音を展開して討論していない。

そのため、本論は、『日漢英語言合璧』を主として、明治・大正期に日本人の編纂した他の教材をも利用し、日本人の r 化音に関する認識、学習方法を明確にする。

1 『日漢英語言合璧』に見る発音の片仮名表記

『日漢英語言合璧』(以下『合璧』と略)は鄭永邦・呉大五郎により、明治21年(1888)に初版が発行され、以後大正8年(1919)まで15版を重ねて発行された。3国語対訳の教科書で、英語、中国語、日本語の順に横書きになっている。内容は初学者のために基本的な文字、単語、文を網羅的に教えるために編

まれたものである。特徴的なことは、英語も中国語も日本語の片仮名を用いて注音していることである。r 化語の発音の仮名表記の分析に入るまえに、『合璧』の中国語の仮名表記の体系を明らかにしておかなければならない。以下、特殊な発音表示符号と韻母の仮名表記の規則を考察する。

1.1 『日漢英語言合璧』の発音表示符号

『合璧』は、中国語の特別な発音を表示するために、いくつかの符号を採用している。凡例で説明しているが、不可解なところがあり、また本文中には凡例の説明に違反している例も見られる。それらの符号の意味を解明するために、本文の例を探し集めて検討する。筆者は現在通用的な中国語を発音するピンイン符号を利用して、『合璧』の符号の意味を分析する。

(1) 漢字の左下、左上、右上、右下の四隅に○を以て示すことにより「上平、下平、上声、去声」を表す。

符号○を用いて漢字の四隅に書き添え、中国語の四声を表示するのは明治・大正時代において常用されていた方法である。

(2) 符号‘について、凡例の「漢語切音畧例」で「符ヲ加フル者ハ。喉頭音及ビ舌音。唇音ノ喉頭ニ響クモノ。即チ

| | |
|----------------|---------------|
| ê 俄 (‘オー) | tê 得 (‘トー) |
| ‘ho 河 (‘ホー) | lê 勒 (‘ロー) |
| sê 齋 (‘ソー) | ‘hêi 黑 (‘ヘイ) |
| kei 給 (‘ケイ) | ‘hu 戸 (‘ホー) |
| ‘hua 花 (‘ホー) | ‘huai 懷 (‘ホー) |
| k’uai 快 (‘クアイ) | kuei 貴 (‘クイ) |
| chê 這 (‘チー) | shê 舍 (‘シー) |

jè 熱 (‘ジ’)

等ナリ。」と書かれている。

『合璧』の凡例では、例中の発音表記はローマ字を用いてウェード式を採用しているが、正文ではウェード式を採用せずに仮名で表記している。『合璧』では、発音の仮名表記は字の上に書いているが、本論文では見やすいように字の後ろに () に入れて書き添えることにする。

しかし、「喉頭音、舌音、及び唇音の喉頭に響くもの」はといった何をさすか。この問いを明らかにするために、筆者は正文中で符号 ‘ が使用されている例を調査してみた。以下の例のピンインは筆者が加えたもので、原文にはない。

① 軟口蓋無気閉鎖音 g を声母とする音節の大多数

姑 (‘ク’) gu 樹 (‘ク’) gua
 過 (‘ク’) guo 國 (‘ク’) guo
 桂 (‘ク’) gui 怪 (‘ク’) guai
 館 (‘ク’) guan 光 (‘ク’) guang
 哥 (‘ク’) ge 個 (‘ク’) ge
 給 (‘ク’) gei 跟 (‘ク’) gen
 狗 (‘ク’) gou

例外は以下の6つある。

橄 (‘カ’) gan 高 (‘カ’) gao
 虹 (‘カ’) gang 瓜 (‘ク’) gua
 共 (‘コ’) gong 礮⁹ (‘コ’) gong

「瓜」の仮名表記の「クワ」は特別で、ほかの同音字はすべて「クワ」としているからである。「瓜」の場合は書き漏らしがあるかもしれない。

声母 g の音節の例からみると、符号 ‘ の使用は韻母によって違う。韻母が u、ua、uo、ui、uai、uan、uang、e、ei、en 及び ou である場合は ‘ を使っているが、韻母が an、ao、ang である場合は使っていない。

② 軟口蓋有気閉鎖音 k を声母とする音節の一部

刻 (‘コ’) ke 庫 (‘ク’) ku
 困 (‘ク’) kun 快 (‘ク’) kuai

同じ情況で、‘ が使われていない例もある。

咖 (‘カ’) ka 坎 (‘カ’) kan
 烤 (‘カ’) kao 開 (‘カ’) kai
 孔 (‘コ’) kong

それで、声母 k の音節では、‘ は韻母が u、un、uai や e である音節において採用されている。

③ 軟口蓋摩擦音 h を声母とする音節の一部

和 (‘ホ’) he 很 (‘ヘ’) hen
 戸 (‘ホ’) hu 話 (‘ホ’) hua
 化 (‘ホ’) hua 伙 (‘ホ’) huo
 厚 (‘ホ’) hou 黑 (‘ヘ’) hei

同じ情況で、‘ が使われない字もある。

孩 (‘ハイ’) hai 號 (‘ハウ’) hao
 旱 (‘ハ’) han 行 (‘ハン’) hang
 紅 (‘ホン’) hong 胡 (‘ホ’) hu
 回 (‘ホイ’) hui

h を声母とし、‘ が採用されている音節の

韻母は e, ei, en, u, ua, uo, uang, ou である。声母 h はハ行の仮名を以て表している。日本語のハ行音は正確には声門音であって軟口蓋音ではないが、中国語の h と近似する音としてハ行音があてられている。

以上のように、符号 ‘ は、舌根音 g, k, h を声母とする上に、e を主母音とする韻母、u を介音とする韻母、及び u, ou と結びつく音節において付けられているのが一般的である。その理由を考えると、g, k, h の発音は舌の根元、口の奥の方から発する。e, u, ou を発音する時、舌も後ろから始まる。g, k, h, e, u, ou が含まれている音節は、発音する時舌の位置が後ろにあるので、『合璧』で「喉頭音、舌音」と定義されるようである。

符号 ‘ は主に以上に載せている声母が g, k, h である音節に付けられているが、それ以外にも一部の例にも見られる。

④ e を主母音とする音節の大部分

| | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 本 (‘ベ ^ズ) ben | 門 (‘メ ^ズ) men |
| 雷 (‘レイ) lei | 朋 (‘ボン) peng |
| 盆 (‘ポエヌ) pen | 櫓 (‘トン) deng |
| 等 (‘トエン) deng | 得 (‘ト) de |
| 疼 (‘トエン) teng | 色 (‘ソー) se |
| 正 (‘チオン) zheng | 這 (‘チオール ¹¹) zhe |
| 疹 ¹² (‘チエヌ) zhen | 城 (‘チ ^ン) cheng |
| 舍 (‘シ ^{オー}) she | 神 (‘シ ^{エヌ}) shen |
| 甚 (‘シエ) shen | 繩 (‘シ ^{オン}) sheng |
| 熱 (‘シ ^{オー}) re | 忍 (‘シ ^{エヌ}) ren |

e を主母音としても符号 ‘ が使用されていない例も見られる。

| | |
|------------------------|----------------------------|
| 北 (ベイ) bei | 没 (メイ) m ei |
| 麼 ¹³ (モ) me | 真 (‘チ ^{エヌ}) zhen |

| | |
|---------------------------|----------------------------|
| 著 (‘チヲ) zhe | 舌 (‘ー) she |
| 扯 (‘チ ^{オー}) che | 塵 (‘チ ^{エヌ}) chen |
| 車 (‘チ ^{オー}) che | 人 (‘ジ ^ズ) ren |
| 爺 (イエー) ye | |

このように、e を主母音とする音節の中、韻母が en, eng である音節に符号 ‘ を添える場合は多く、韻母が e である音節のほぼ半分には付けるが半分が付けていないが、韻母が ei である音節は一個しか見られていない。

単母音 e の発音は日本仮名の「エ+オ」の間のような発音になる。日本語には e に相当する発音がなく、『合璧』は、「オ、ヲ、ウ」段の仮名をもって表記している。(本論1.2を参考)そして、符号 ‘ を添えて仮名の本来の発音をせず、実際の発音に変わるという意味を表すはずである。しかし、同じ韻母が e である音節にこの符号をつけない例も5つ見られ、作者の迷いがあるようにみえる。

en, eng の発音において、e は後ろの [n], [ŋ] を発音する時の舌の動きの影響で音色が変わる。日本人にとって、「ウ」、「オ」、「エ」のどっちに近いかが判断にくくなる。『合璧』は、en を「エ段+ン」で記し、eng を「オ段+ン」で表記している。(本論1.2を参考)その上、符号 ‘ を添えて仮名の元の仮名通りに発音をせずに、すぐ後ろの鼻音に相応するために発音するという意味を表すと推測できる。その上、舌音 d, t 及び唇音 b, p が声母である音節も見られる。「真 (‘チエヌ) zhen」、「塵 (‘チエヌ) chen」には ‘ が付いていない。印刷上の間違いであろうと思われる。

二重母音 ei が韻母である音節は3つしかなく、のみには ‘ がついている。ei では、その e が日本語の「エ」の音に近い発音になり、i の音をそえる。『合璧』は「エ段+イ」を用いて表記している。(本論1.2を参考)「北

(ペイ) bei]、「没(メイ) m ei」で符号´をつけていないが、「雷(レイ) lei」には出てくる理由は不明である。

⑤ u を韻母または介音とする音節

退(トイ) tui 駝(トヲ) tuo
 孫(ソ^{ウエス}) sun 索(ソヲ) suo
 算(ソワ^ス) suan
 軟(ジ^ヨワス) ruan

同じ条件で使用されていない例もある。

布(ブー) bu 葡(プー) pu
 母(ムー) mu 父(フー) fu
 肚(ツ^〇ー) du

例をみると、u を介音とする韻母がウ段以外の仮名と繋がる場合は、符号´が採用されている。それで、符号´をつけるのは、仮名の本来の音を発せず、後ろに繋がる韻母と合致しようと発音するという意味を表す。

⑥ ou を韻母とする音節

斗(トウ) dou 頭(トウ) tou
 頭(トエウ) tou 樓(ロウ) lou
 走(ツオウ) zou 肉(ジ^ョウ) rou
 某(モウ) mou

同じ韻母であってもこの符号が使用されていない例もある。

帚(チ^ョウ) zhou 臭(チ^ョウ) chou
 瘦(シ^ョウ) shou 走(ツオウ) zou

ou の発音は喉に響くと聞き取る。日本語には ou という発音と全く同じ発音がないの

で¹⁴、符号´を付けて、仮名の本来の発音をしなくするように意味する。ところで、符号´は、舌音の d、t、l とそり舌音の r に使用され、そり舌音の zh、ch、sh には使用されないのは不可解である。声母が唇音 m である「某(mou)」は「モウ」と「モウ」、「們(men)」は「メヌ」と「メヌ」のような違う仮名表記がある。これは作者が「唇の喉頭に響くもの」の判断が曖昧であった結果と思われる。

⑦ ong を韻母とする音節。但し、次の2つの音節のみある。

籠(ロン) long 絨(ジ^ョン) rong

実は、「籠(long)」には「ロン」と「ロン」の2つの仮名表記がある。上記の2例のみに符号´を付けている理由は不明である。

⑧ r 化音節。1例のみ

末兒(モール) mor

この例以外の r 化音節はすべて´をつけていないので、これは印刷上の問題と思われる。

以上のように、符号´は舌根音 g、k、h が声母である音節に集中的に付けられている。そのほか、一部の主母音が e である音節、韻母が ou である音節にも見られる。符号´の使用目的は、日本の仮名の本来の発音をしないと表示することである。作者の「唇音ノ喉ニ響クモノ」は現代の音声学では理解できないが、彼自身の聴覚的に喉が響く音節を指すと思われる。一方、符号´が付されていないながら、その意味が不明な例もある。そのような状況であるから、符号´の使用が厳密さを欠

くと言わざるを得ない。

しかし、特別な符号'を作ることによって、『合璧』が日本語にはない中国語の特別な発音に注意を払ったことはわかる。

(3) 符号[・]について、「[・]符ヲ加フル者は。喉口音ニシテ。即チ

ū 於 (イー) chū 句 (チー)
 nū 女 (ニ) hsü 須 (シー)
 lü 呂 (リ) yüan 圓 (イ^エ)
 chüan 卷 (チ^エ) hsüan 懸 (シ^エ)
 lüan 戀 (リ^エ) 等ナリ。」と説明している。

正文では、喉口音ūがある音節は一律に符号[・]を書き添えている。例えば、

驢 (リ) lü 具、橘、局 (チ) jü
 絹 (チ^エ) jüan 取、去 (チ) qü
 泉 (チ^エ) qüan
 雪、靴、學 (シエ) xüe
 血 (シエ) xüe

である。

(4) 符号^〇について、「^〇ヲ加フル者ハ。舌音ニシテ。即チ

tu 都 (ツ^〇) ti 的 (チ^〇)
 t'ing 亭 (チ^〇) t'ien 天 (チ^〇)

等ナリ。」と述べている。

凡例に挙げている例に出現する声母の「d、t」は舌尖音である。全書において、d、tの2つの子音に対応する仮名は一部分だけに符号^〇が添えられている。以下に挙げてみる。

① dを声母とする音節

第 (チ^〇) di 的 (チ^〇) de
 的 (チ^〇) de 碟 (チ^〇) die
 鵬 (チ^〇) diao 點 (チ^〇) dian
 頂 (チ^〇) ding 肚 (ツ^〇) du

dを声母としても^〇を添えない例もある。

大 (ター) da 島 (タウ) dao
 道 (タウル) dao 袋 (タイ) dai
 單 (タス) dan 蛋 (タオ) dan
 當 (タン) dang 顛 (テン) dian
 多 (トヲ) duo 鈍 (トウ^エ) dun
 短 (トワ^ス) duan 冬 (トン) dong
 得 (ト) de 斗 (トウ) dou
 櫂 (トン) deng 等 (ト^エ) deng

② tを声母とする音節

體 (チ^〇) ti 鐵 (チ^〇) tie
 縑 (チ^〇) tiao 天¹⁵ (チ^〇) tian
 廳 (チ^〇) ting 塗 (ツ^〇) tu
 土 (ツ^〇) tu

tを声母とする^〇が添えられていない例もある。

踏 (ター) ta 太 (タイ) tai
 桃 (タウ) tao 毯 (タ^ス) tan
 條 (タヤウ) tiao 堂 (タン) tang
 頭 (トウ) tou 頭 (トエウ) tou
 退 (トイ) tui 疼 (ト^エ) teng
 腿 (トイ) tui 駝 (トヲ) tuo
 通 (トン) tong

以上のように、この符号は、声母がd、tで、韻母がi、e、ie、iao、ian、ing、uであ

る音節に使用されている。これらの韻母に先行する声母 d、t の仮名表記はチ、ツである。日本語のチ、ツは歯擦音で、閉鎖音である d、t と違っている。それで、符号^oの使用には2つの意味がある。1つは「d、t」が舌尖音であることを指摘すること、2つは仮名チ、ツの発音を d、t に変えること。

- (5) 符号^vについて、「^vヲ加フル者ハ。開口齒音ニシテ。即チ

shên・深^vシ^vヌ

等ナリ。」と説明している。

凡例に挙げてある他の2例には顕著な間違いがあるのでここでは略する。符号^vの使用状況は一体何か、筆者が正文を調べ統計してみると、この符号はほとんどそり舌音の zh、sh、sh、r を声母とする音節に使われている。以下に挙げてみる。

① 声母が zh

| | | |
|----|--|-----------------------------|
| チ | 詐 (チ ^v ァー) zha | 著 (チ ^v ヲ) zhe |
| | 姪、紙、枝 (チ ^v ー) zhi | 蛛 (チ ^v ウ) zhu |
| | 豬 (チ ^v ワー) zhu | 住 (チ ^v ウ) zhu |
| | 站 (チ ^v ヤヌ) (チ ^v ァヌ) zhan | |
| | 真 (チ ^v ァヌ) zhen | 照 (チ ^v ァウ) zhao |
| | 帚 (チ ^v ァウ) zhou | 桌 (チ ^v ァー) zhuo |
| | 鑊 (チ ^v ォ) zhuo | 丈 (チ ^v ァン) zhang |
| | 中、鐘 (チ ^v ォン) zhong | |
| | 重 (チ ^v ァン) zhong | |
| | 莊 (チ ^v ォワン) zhuang | |
| ・チ | 這 (チ ^v ァー) zhe | |
| ・チ | 正 (チ ^v ァン) zheng | |
| チ | 站 (チヤヌ) zhan | |

この表に載せている例をみると、zh を表示する仮名のほとんどが右肩に^vを添えている。「站 (zhan)」が「チヤヌ」、「チヤヌ」

の2つの形で表され、「正 (zheng)」が「チ^vァン」で表されているのは、符号^vが書き漏らされたのであろう。

② 声母が ch

| | | |
|----------------|---|-----------------------------|
| チ | 叉、茶 (チ ^v ァー) cha | |
| | 池、匙 (チ ^v ー) chi | 廚 (チ ^v ウ) chu |
| | 處、出、朱 (チ ^v ワー) chu | |
| | 柴 (チ ^v ァイ) chai | |
| | 吵、潮 (チ ^v ァウ) chao | |
| | 韃、鎗 (チ ^v ァヌ) chan | |
| | 春 (チ ^v ァイス) chun | 臭 (チ ^v ァウ) chou |
| | 船 (チ ^v ォワン) chuan | |
| | 長、腸、厰 (チ ^v ァン) (チ ^v ァン) chang | |
| | 橙 (チ ^v ァン) cheng | |
| | 誠 (チ ^v ァン) cheng | |
| | 蟲 (チ ^v ォン) chong | |
| | 窓、牀、瘡 (チ ^v ォワン) chuang | |
| | 茶 (チ ^v ァー) cha | 出 (チ ^v ー) chu |
| | 處 (チ ^v ワー) chu | 差 (チ ^v ァイ) chai |
| | 塵 (チ ^v ァン) chen | 長 (チ ^v ァン) chang |
| ・チ | 扯 (チ ^v ァー) che | |
| ・チ | 車 (チ ^v ァー) che | 城 (チ ^v キン) cheng |
| チ ^o | 蟲 (チ ^o ォン) chong | |

ch の仮名の大部分には^vを加えている。しかし、音節 che、chu、chai、chang、chong などには^vを加えているものと加えていないものと2つの形が見られる。^vを付けていない例は少数であるので、作者の書き漏らしだと思われる。

③ 声母が sh

| | | |
|---|---|---|
| シ | 鯨 (シ ^ャ ー) sha | 舌 (シ ^ャ ー) she |
| | 是 (シ ^ー) shi | 薯 (シ ^ウ) shu ¹⁶ |
| | 數 (シ ^ウ) shu | 少 (シ ^{ャウ}) shao |
| | 閃 (シ ^{ャス}) shan | 身 (シ ^{エヌ}) shen |
| | 深 (シ ^{エヌ}) shen | 瘦 (シ ^{ョウ}) shou ¹⁷ |
| | 手 (シ ^{ョウ}) shou | 熟 (シ ^{ヨウ}) shou |
| | 刷 (シ ^{ワー}) (シ ^{ヨワー}) shua | |
| | 説 (シ ^ヲ) shuo | 水 (シ ^{ウイ}) shui ¹⁸ |
| シ | 誰 (シ ^{ウイ}) shui | 上 (シ ^{ヤン}) shang |
| | 商 (シ ^{アン}) shang | 盛 (シ ^{ヤン}) sheng |
| シ | 舍 (シ ^ャ ー) she | 神 (シ ^{エヌ}) shen |
| | 甚 (シ ^エ) shen | 繩 (シ ^{ヤン}) sheng |
| シ | 霜 (シ ^{ヨワン}) shuang | |

この表からみると、shを声母とする音節では、「霜 shuang (シ^{ヨワン})」以外、shを表す仮名は、すべて符号[∨]が付けられている。そのうち、「是」や「水」の仮名表記は2つの形を以ている。「霜」には符号[∨]を書き漏らした可能性が高いが、『合璧』ではシを以てxを代表するのが普通であるので作者は「霜」の発音を「xüang」とした可能性もある。

④ 声母が r

| | | |
|---|----------------------------|--------------------------|
| シ | 日 (シ ^ー) ri | 人 (シ ^ス) ren |
| シ | 褥 (シ ^ウ) ru | |
| シ | 熱 (シ ^{オー}) re | 忍 (シ ^{エヌ}) ren |
| | 肉 (シ ^{ョウ}) rou | |
| | 輓 (シ ^{ヨワヌ}) ruan | |
| | 絨 (シ ^{ヨン}) rong | |

rを表す仮名はすべて符号[∨]を付け加えている。

(6) 字の上に横線を引くことによって有気音を表示する。凡例では「漢字字頭ニ一符ヲ

施スモノハ。出氣ノ記號トス。蓋シ出氣トハ。喉頭ヨリ激發スル音勢ヲ謂フ。而メ出氣セサル音ハ。之ニ反シテ内ニ吸フガ如キ勢ヲ謂フ。例ヘバ「茶 (チ^ャー)、乍 (チ^ャ)」等ノ如シ。」と説明している。本論文は読みやすさの点も考慮して、仮名表記の下に横線を引く形式に改めている。

『合璧』では、声母が有気音である字の上には横線を引いている。しかし、「瀑 (パウ)」、「票 (ピヤウ)」のような遺漏は偶々ある。

(7) 符号^ゝについて

凡例には印刷上の間違いがあるので、符号^ゝについての説明が見られない。「tzū子 (ツ^ー)」と「ssu絲 (ツ^ー)」の2例しか見られないが、正文では、「絲」の仮名表記は「ス^ー」となり、凡例と違っている。『合璧』を通覧して、この符号は5字だけの仮名表記に見られる。

子 (ツ^ー) zi 次 (ツ^ー) ci
 司 (ス^ー) si 絲 (ス^ー) si
 厠 (ス^ー) ce

zi, ci, siは舌歯音である。「次」字は1回だけででている。「子」は非常に多くあり、発音の仮名表記が2つ違う形があり、それぞれは「ツ」と「ツ」である。両者の出現する回数は均等で、語の選択上にも特別な基準が見られない。例えば、

ツ 木廠子、飯館子、賣果子的
 ツ 戲子、刀子匠、看園子的

である。

「絲」は3回出ており、それぞれが「絲 (ス^ー) 線」(p.34)、「絲 (ス^ー)」(p.65)、「煙

絲 (スー)」(p.68) のようである。声母 c は仮名「ツ」を以て表すのは普通だとみえるので、「厠」が仮名「ス」を用いるのは間違いと思われる¹⁹。ほかには、「si(スー) 四」、「zi(ツー) 自」は同じ舌歯音であるが符号[〘]が付けられていない。印刷上の遺漏かもしれない。

さて、『合璧』の中国語の発音の表示符号は先行した教科書を踏襲したり、後に出てくる教科書に影響を与えたりしたであろうか。筆者は『合璧』を『語言自邇集』と対照して、両者の符号が全く異なっていると結論した。例えば、『語言自邇集』は符号^ˊを以て有気音を表している。それに、明治・大正期の他の12点の教科書と辞典をみても、同じ符号を使用する本はみつからない。

『合璧』の発音表示符号は、中国語の発音が仮名で表記できないことに細かく配慮して、舌音、摩擦音、有気音、舌歯音などが適切に表記されるよう工夫をこらしており、一定の科学性、独創性を備えていると評価できる。

| 仮名表記 | 例 | 韻母 |
|------------------|---|-----|
| ア段 | 巴 (バ) | a |
| ア段+一 | 八 (パー) | a |
| | 鴨 (ヤー) | ia |
| ア段+イ | 百 (パイ) | ai |
| ア段+ウ | 葯 (ヤウ) | iao |
| | 匍 (パウ) | u |
| | 包 (パウ)、 鶴 (ハウ) ²⁰ | ao |
| ア段+ヤウ | 條 (タヤウ) | iao |
| ア段+ ^ス | 岸 (ア ^ス)、 半 (ハ ^ス) | an |
| ア段+ヌ | 萬 (ワヌ) | uan |
| ア段+ ^ス | 晩 (ワ ^ス) | uan |

1.2 『日漢英語言合璧』の韻母の仮名表音体系

『合璧』では22の声母(ゼロ声母を含む)が見られる。これは現在の漢語拼音方案と同じである。韻母が34が見られ、漢語拼音方案のuengの例が見られない。筆者は『合璧』の韻母の仮名を統計、整理して、漢語拼音方案のどの韻母が対応するかを、表によって示すことにした。表では、仮名ごとに用例を1つ挙げ、特殊な場合は2、3例を挙げる。zi、ci、siの韻母のiは舌歯音で、他の音節にある舌面音のiと異なるので、符号*を付けて表示する。現代の発音と異なる古い発音または方言音は記号∞をつけて注で詳しく説明する。韻母の仮名系統と外れる仮名表記は□で表記して例外とする。

『合璧』では、仮名「エ」が小さく書かれる場合、旧仮名「エ」で記すが、以下では、統一的に「エ」で表す。仮名「ヌ」には大きいものと小さいものがあり、特別な意味を持たないと思われるが、以下の例では原文のまま引用する。

| 仮名表記 | 例 | 韻母 |
|--------------------|-----------------------------------|------|
| イ段+ ^ヲ ヌ | 船 (チ ^ヲ ヌ) | uan |
| イ段+ ^ヲ ン | 莊 (チ ^ヲ ン) | uang |
| イ段+ ^ヲ ー | 要 (シ ^ヲ ー) | ua |
| イ段+ ^ウ | 留 (リ ^ウ) | iu |
| イ段+ ^ス | 人 (ジ ^ス) | en |
| | 林 (リス) | in |
| イ段+ヌ | 蘋 (ビ ^ス) ²¹ | in |
| イ段+ヲ | 説 (シヲ) | uo |
| イ段+ ^ヲ オ | 鐳 (チ ^ヲ オ) | uo |
| イ段+ヨワヌ | 軟 (ジ ^ヲ ワヌ) | uan |
| イ段+ ^ン | 兄 (シ ^ン) | iong |

| | | |
|-------|-----------------------------------|-----|
| ア段+ン | 幫 (パン) | ang |
| | 虹 (カン) ^{∞22} | |
| | 洋 (ヤン) | |
| ア段+ル | 二 (アル) | er |
| ア段+ーイ | 那 (ナーイ) ²³ | a |
| ア段+ウル | 道 (タウル) ²⁴ | ao |
| イ段 | 裏 (リ)、 的 (チ〇) [∞] | i |
| | 呢 (ニ) [∞] | e |
| | 女 (ニ) | ü |
| イ段+アー | 傢 (チアー) | ia |
| イ段+ー | 鼻 (ピー) | i |
| | 驢 (イー) | ü |
| | 油 (ユー) | ou |
| イ段+ーン | 井 (チーン) | ing |
| イ段+アス | 站 (チアス) | an |
| イ段+アン | 商 (チアン) | ang |
| イ段+ウ | 蛛 (チウ) | u |
| イ段+ウー | 初 (チウー) | |
| イ段+ウイ | 水 (シウイ) | ui |
| イ段+ウイ | 税 (シウイ) | ui |
| イ段+エ | 月 (ユエ) | ue |
| イ段+エ | 甚 (シエ) | en |
| イ段+ユー | 秋 (チユー) | iu |
| イ段+エー | 別 (ピエー)、 血 (シエー) ²⁷ | ie |
| | 鐵 (チエー) | |
| イ段+エス | 便 (ピエス) | ian |
| | 泉 (チエス) | uan |
| | 震 (チエス) | en |
| イ段+エス | 邊 (ピエス) | ian |
| イ段+エス | 身 (シエス) | en |
| イ段+オウ | 帚 (チオウ) | ou |
| イ段+オウ | 手 (シオウ) | ou |

| | | |
|-------|------------------------------------|-----|
| イ段+ス | 雲 (イス) | un |
| イ段+ワー | 刷 (シワー) | ua |
| イ段+ヲ | 著 (チヲ) | e |
| イ段+ン | 明 (ミン) | ing |
| ウ段 | 子 (ツ) [*] | i |
| ウ段+ワー | 法 (フワー) | a |
| ウ段+ワ | 髮 (フワ) | a |
| ウ段+アー | 雜 (ツアー) | a |
| ウ段+アイ | 再 (ツアイ) | ai |
| ウ段+アウ | 早 (ツアウ) | ao |
| ウ段+アス | 飯 (フアス) | an |
| | 蠶 (ツアス)、 胖 (ハアス) ^{∞25} | an |
| ウ段+アン | 方 (フアン) | ang |
| ウ段+アン | 隣 (ツアン) | ang |
| ウ段+オウ | 走 (ツオウ) | ou |
| ウ段+オン | 總 (ツオン) | ong |
| | 風 (フオン) | eng |
| ウ段+ー | 厠 (スー) ²⁶ | e |
| | 自 (ツー) [*] | i |
| | 布 (ブー) | u |
| ウ段+エイ | 飛 (フエイ) | ei |
| ウ段+エス | 分 (フエス) | en |
| ウ段+エン | 怎 (ツエン) | en |
| ウ段+ウー | 祖 (ツウー) | u |
| ウ段+ウー | 醋 (ツウー) | u |
| ウ段+ワー | 樹 (クワー) | ua |
| ウ段+ヲー | 國 (クヲー) | uo |
| ウ段+ウオ | 昨 (ツウオ) | uo |
| ウ段+アオ | 左 (ツアオ) | uo |
| ウ段+オー | 鎖 (スオー) | uo |
| ウ段+ワイ | 怪 (クワイ) | uai |
| ウ段+ワイ | 快 (クワイ) | uai |

| | | |
|--------------------|-------------------------------------|------|
| イ段+ ^オ ー | 舌 (シ ^オ ー) | e |
| | 桌 (チ ^オ ー) | uo |
| イ段+ ^ン | 正 (チ ^ン) | eng |
| | 重 (チ ^ン) | ong |
| イ段+ヤー | 家 (チヤー) | ia |
| イ段+ヤ | 甲 (チヤ) | ia |
| イ段+ヤ ^ー | 詐 (チヤ ^ー) | a |
| イ段+ヤイ | 柴 (チヤイ) | ai |
| イ段+ヤウ | 錶 (ピヤウ)、 雀 (チヤウ) ²⁸ | iao |
| イ段+ヤウ | 鷗 (チ ^ウ ヤウ) | iao |
| イ段+ヤヌ | 站 (チヤヌ) | an |
| イ段+ヤン | 丈 (チヤン) | ang |
| イ段+ヤン | 亮 (リヤン) | iang |
| イ段+ヤウ | 廚 (チヤウ) | u |
| イ段+ユイ ^ス | 春 (チユイ ^ス) ³⁰ | un |
| イ段+ヨウ | 熟 (シヨウ) | ou |
| イ段+ヨン | 中 (チヨン) | ong |
| イ段+ヨン | 絨 (シヨン) | ong |
| | 窮 (チヨン) | iong |

| | | |
|---------------------------------|------------------------------------|------|
| ウ段+イ | 桂 (クイ) | ui |
| ウ段+ウイ | 嘴 (ツウイ) | ui |
| ウ段+ワ ^ス | 館 (クワ ^ス) | uan |
| ウ段+ ^オ ワ ^ス | 鑽 (ツ ^オ ワ ^ス) | uan |
| ウ段+ ^エ ス | 困 (ク ^エ ス) | un |
| ウ段+ワン | 光 (クワン) | uang |
| エ段+イ | 北 (ペイ) | ei |
| エ段+ ^ス | 本 (ペ ^ス) | u |
| エ段+ ^ー | 野 (エ ^ー) | ie |
| エ段+ ^ン | 顛 (テン) ²⁹ | ian |
| オ段+ウ ^ー | 戸 (ホウ ^ー) | u |
| オ段+ワ ^ー | 話 (ホウ ^ー) | ua |
| オ段+ヲ | 多 (トヲ) | uo |
| オ段+ ^ー | 駱 (ロー ^ー) | uo |
| オ段+イ | 退 (トイ) | ui |
| オ段+ワ ^ス | 短 (トワ ^ス) | uan |
| オ段+ ^ウ エ ^ス | 鈍 (トウ ^エ ス) | un |
| オ段+ ^エ ス | 輪 (ロ ^エ ス) | un |
| オ段+ ^エ ス | 倫 (ロ ^エ ス) | un |

以上を、韻母を基準として、規則をまとめると以下ようになる。

| 韻母 | 規則 (同一仮名は大小に関わらず 大きい仮名で書く) |
|-----|----------------------------------|
| a | 「ア段」或は「ア段+ ^ー 」で終わる |
| ai | 「ア段+ ^ー 」で終わる |
| ao | 「ア段+ウ」で終わる |
| an | 「ア段+ヌ」で終わる |
| ang | 「ア段+ン」で終わる |
| o | 「オ段+ ^ー 」で終わる |
| ou | 「オ段+ウ」で終わる |
| ong | 「オ段+ン」で終わる |

| 韻母 | 規則 (同一仮名は大小に関わらず 大きい仮名で書く) |
|------|---|
| in | 「イ段+ ^ス 」で終わる |
| iang | 「ヤン」で終わる |
| ing | 「イ段+ ^ン 」或は「イ段+ ^ー ン」で 終わる |
| iong | 「ヨン」で終わる |
| u | 「ウ」或は「ウ+ ^ー 」で終わる |
| ua | 「ワー」で終わる |
| uo | 「オ、ヲ」或は「オー」、「ヤー」で 終わる |
| uai | 「ワイ」で終わる |

| | |
|-----|--------------------------|
| e | 「オ、ヲ、ウ段」或は「オ」、「ウ段＋ー」で終わる |
| ei | 「エ段＋イ」で終わる |
| en | 「エ段＋ン」で終わる |
| eng | 「オ段＋ン」で終わる |
| i | 「イ」或は「イ＋ー」で終わる |
| ia | 「ア段」或は「ア段＋ー」で終わる |
| ie | 「エ＋ー」で終わる |
| iao | 「ヤウ」で終わる |
| iou | 「イ段＋ー」で終わる |
| ian | 「エヌ」で終わる |

上掲の韻母を表す仮名表記においては、韻母がeである場合、仮名表記はオ、ヲ、ウ或はオ、ウ段の仮名で終わる。だが、これらの仮名の発音は[e]と近くなく、[o]或は[u]に近い。何故これらの仮名を採用したのかと考えると、eを発音する時の舌の位置が大体oと同じ(oより稍高い)であり、かつ、eは非円唇、oは円唇で、区別するのが難しいからであろう。oの唇形を狭くするとu音になる。日本語には中国語のeに相当する母音がないので、eの発音方法について、現代の日本で使われているある中国語の教科書は、「日本語の「エ」を発音する時の唇の形で、のどの奥から「オ」を発音する³⁾というように説明している。そのため、初級の日本人学習者はともすれば「オ」と発音してしまう。

更に、上掲の表で収集した韻母の仮名表記からは、以下のような規則が発見できる。

- ① iで終わる韻母(ai, ei, ui, uai)は、すべて仮名「イ」で終わる。
- ② 前鼻音の-nで終わる韻母(an, en, in, un, ian)は、ほとんど小さい仮名「ヌ」で終わる。特殊な例は「站(チヤヌ)」、「身(シエヌ)」、「怎(ツエン)」、「顛(テン)」、「船(チヨウ

| | |
|------|---------------------|
| uei | 「ウイ」或は「イ」で終わる |
| uan | 「ワヌ」で終わる |
| uen | 「エヌ」で終わる |
| uang | 「ヨワン」で終わる |
| ü | 「イ段」或は「イ段＋ー」で終わる |
| üe | 「ユ [±] 」 |
| üan | 「イ段+ [±] 」 |
| üen | 「イヌ」 |
| er | 「アル」 |

ヌ)」、「軟(ジヨワヌ)」、「萬(ワヌ)」であり、これらは「ン」または大きな「ヌ」を用いている。

- ③ 後鼻音-ngで終わる韻母(ang, ong, ing, iang, iong, uang)は、1つの例外「胖(パヌ)」を除いて、すべて仮名「ン」で終わる。
- ④ 単韻母がa、及び主母音がaである複韻母(a, ia, ua)は、1つの例外「那(ナーイ)」を除いて、すべて「ア段の仮名」、或は「ア段の仮名＋ー」で終わる。
- ⑤ 3つ以上の仮名符号で表し、韻母が-n、-ngで終わるもの以外の音節は、大部分が2番目の仮名を小さくして右肩に書き添える。例外は「站(チヤヌ)」、「道(タウル)」、「雀(チヤウ)」、「錶(ピヤウ)」、「條(タヤウ)」だけである。

2 『日漢英語言合璧』のr化音

2.1 『日漢英語言合璧』のr化語

『合璧』には多くのr化語が載っている。筆者の統計によると、r化語は95個あり、198回登場する。それらのr化語を以下に並

べる。使用されている回数が2回以上ならばその数字を後ろにつける。

今兒 (2) 今兒個 (2) 兒 後兒
 昨兒 前兒 (2) 花兒洞子 裏兒
 女孩兒 小孩兒 侄女兒 媳婦兒
 嘴唇兒 下巴頰兒 房頂兒
 杌凳兒 取燈兒 (2)
 七星罐兒 汗褸兒 戒指兒 頂針兒
 兜兒 鈕子眼兒 信封兒 墨盒兒
 胡椒麵兒 杏兒 棗兒 山藥豆兒
 家兔兒 松鼠兒 羊羔兒 猴兒
 鸚哥兒 家雀兒 小雞兒 蝴蝶兒
 火虫兒 跑堂兒的 貓兒眼
 麻子臉兒 茶葉末兒 中中兒
 等一等兒 一塊兒 (2) 瞧兒 名兒
 油味兒 靜靜兒的 會兒³² 這溜兒
 克蘭合店兒 (2) 幾步兒 雞子兒
 小塊兒 (2) 飯廳兒 一樣兒
 錯兒 總碼兒 門口兒 待一待兒
 那邊兒 下邊兒 左邊兒 個兒
 分兒³³ (2) 煙捲兒 球兒房 球兒
 跑堂兒的 現成兒的 鞋後跟兒
 儘溜頭兒 賠本兒 坎肩兒 (2)
 下兒³⁴ 時候兒 (2) 沒準兒
 幾兒 (2) 等等兒 歇歇兒
 抄近兒 信皮兒 剃頭刀兒
 多兒錢 小妞兒 這兒 (9)
 歲數兒 (6) 道兒 (7) 一點兒 (4)
 點兒³⁵ (33) 那兒 (=哪兒)³⁶ (21)
 那兒³⁷ (6) 樣兒³⁸ (10)

r化語の中で、出現頻度が高いのは「那兒 (=哪兒)」、「樣兒」、「這兒」、「那兒」、「道兒」と「歲數兒」である。「那兒 (=哪兒)」、「樣兒」、「這兒」、「那兒」は会話でよく使用されている語で、「道兒」と「歲數兒」は道順を聞く会話と年齢についての会話があるた

め、多く出現する。語によってはr化と非r化の2つの形が見られるが、使用度数はどちらもほぼ同じである。例えば、「時候兒」と「時候」などがそうであろうと思われる。

『合璧』にあるr化語が常用の語であるかどうかを確認するために、筆者は『北京話兒化詞典』³⁹を一々調べた。その結果、96%の語が収録されており、収録されていないのは4つしかない⁴⁰。このため、『合璧』にあるr化語は常用であろうと思われる。

2.2 『日漢英語言合璧』のr化音

2.2.1 『日漢英語言合璧』のr化音の注音方法

『合璧』において、「兒」は、名詞として、例えば「○兒 (アル) 子」という語を作る場合、左肩の○によって第2声であることが示され、仮名で「アル」と記されている。一方、r化語の場合は、

ラロ 'トロキ
 老' 頭一兒

のように、「兒」の前には短い線「-」が入り、「兒」の声調は記されていない。表音仮名は「アル」から「ル」と変わるのみならず、「兒」の上⁴¹に記されずに前の漢字のすぐ上に、あたかも合体して一字を成すように書かれている⁴²。「ル」の字の大きさについては、多くの場合小さく書かれるのに対して、一部の語では大きい「ル」が出現する。その差異が何を表しているかについては、後文の2.2.2で検討する。

r化音は、本来の音節と声調を失い、直前の韻母と融合する現象であるから、『合璧』のr化音の注音方法はこの規則に沿っている。

『合璧』の凡例に、r化語の発音について記述が見られる。

語氣ニ依テ字音ノ短縮スルモノアリ。例ヘバ孩兒二字ノ如キ。其字音ヲ分テバ。(孩兒ハイアル) トナルモ。言語ノ勢ニ於イテハ。(ハル) ト成ル。此他一點兒ハ(イチ[°]エール)。個個兒ハ(コーコル)等。此例ニ準ズ。

その「字音ノ短縮」は前の音と合併する変化を指すはずである。『合璧』のr化音の注音方法もr化についての説明も、基本的にr化音の音声現象としての特殊性を指摘したものである。

2.2.2 『日漢英語言合璧』のr化韻

『合璧』には、r化韻が23ある。北京語のr化韻の「uangr」、「uengr」と「iongr」の3つが見られない。r化に際しては音声交替規則があり、韻母の最後の音素が捲舌動作と共存できるかによって音交替が起こる。この部分は『合璧』のr化韻の仮名表記とr化の音交替の規則を考察する。

以下、韻尾及び韻母ごとに『合璧』の中のr化語の例⁴³を挙げる。同じ音節がない場合は空白にする。

① 韻尾がi

| 韻母の交替 | 基礎音節 ⁴ の仮名 | r化語 | r化音節の仮名 |
|---------|-----------------------|-----|------------------|
| ai>ar | ハイ | 孩兒 | ハル |
| | タイ | 待兒 | ター ^ル |
| uei>uær | ウ [°] イ | 油味兒 | ウヲル |
| | ホイ | 會兒 | ホル |
| uai>uar | ‘クワイ | 塊兒 | ‘クワ ^ル |

韻尾が「i」で終わる字がr化すると、韻尾「i」が脱落し、主母音が捲舌母音化するという音交替がある。『合璧』は「i」に対応する「イ」を削除し「ル」を加えており、こ

の規則に従っている。

② 韻尾が-n

| 韻母の交替 | 基礎音節の仮名 | r化語 | r化音節の仮名 |
|----------|----------------------------------|-------|--------------------------------|
| an>anr | ペ ^ス | 一半兒 | バル |
| | チエ ^ス | 前兒 | チエ ^ル |
| | イエ ^ス ・イエ ^ス | 眼兒 | イエ ^{ール} |
| | チ [°] エ ^ス | 店兒・點兒 | チ [°] エ ^ル |
| ian>ianr | チエ ^ス | 坎肩兒 | チエ ^{ール} |
| | リエ ^ス | 臉兒 | リエ ^{ール} |
| | ミエ ^ス | 麪兒 | ミエ ^ル |
| | ピエ ^ス | 邊兒 | ピエ ^ル |
| uan>uar | ‘クワ ^ス | 七星罐兒 | ‘クワ ^{ール} |
| en>ær | ‘ペ ^ス | 賠本兒 | ‘ペ ^{ール} |
| | フエ ^ス | 分兒 | フエ ^ル |
| | ‘チ [°] エ ^ス | 頂針兒 | ‘チ [°] エ ^ル |
| | | 鞋後跟兒 | ‘コ ^{ール} |
| in>iær | チ ^ス | 近兒 | チ ^ル |
| | チ ^ス | 今兒 | チ ^ル |
| uen>uær | | 準兒 | ‘チュ ^{イル} |
| | ‘チュ ^イ ス | 嘴唇兒 | ‘チュ ^{イル} |
| üan>uar | ‘チ [°] エ ^ス | 烟卷兒 | ‘チ [°] エ ^ル |

「n」は捲舌を妨げるので、r化する時「n」を削除し、主母音の上でr化するという規則がある。『合璧』は、「n」を小さい「ヌ」を以て表す。r化音では、小さい「ヌ」を消し、代わりに「ル」を付け加えている。「肩兒」、「臉兒」、「本兒」ではその上長音を加えている。長音を加える意味がよくわからないが、「ヌ」を取り消すのはr化の音交替規則を守っている。

③ 韻尾が -ng

| 韻母の交替 | 基礎音節の仮名 | r 化語 | r 化音節の仮名 |
|----------|---------------------------------|-----------|------------------------------------|
| ang>angr | ヤン | 様兒 | ヤ ^ル |
| | タン | 跑堂兒的 | タ ^ル |
| ong | チヨ ^ン | 火虫兒 | チヨ ^ル |
| eng>engr | ト ^ン ・ト ^{エン} | 杙櫓兒 / 取燈兒 | ト ^エ ル |
| | フ ^{オン} | 信封兒 | フ ^オ ール・フ ^オ ル |
| | チ ^{エン} | 現成兒 | チ ^オ ール |
| | シ ^{オン} | 聲兒 | シ ^オ ル |
| | チヨ ^ン | 中中兒 | チ ^オ ル |
| ing | ミン | 明兒 | ミ ^ル |
| | ミン | 名兒 | ミ ^エ ル |
| | チ ^{オン} | 飯廳兒 | チ ^オ ル |
| | チン | 靜靜兒的 | チ ^ル |
| | チ ^{オン} | 房頂兒 | チ ^オ ール |

-ng で終わる音節は r 化する際に、-ng を取って、主母音が鼻音化した上で r 化する。表から見られるように、『合璧』は -ng を仮名「ン」を用いて表しているが、r 化語の中、「跑堂兒的」、「現成兒」、「房頂兒」、「信封兒」の4つは、「ン」を「ル」に変えるのみならず、後ろに長音符号を加える。（「信封兒」は長音を加えない形と長音を加えた形の2つがある。）「長音+ル」という形は「ər」を表す意味があるが、ここではその必要がないので、意味は不明である。もした主母音を長くするというと、母音が鼻音化する規則とは関係がないので、作者自身の判断によった結果であろう。

しかし、大部分の r 化音の仮名表記は、ただ「ン」を大きい「ル」または小さい「ル」へ切替えている。『合璧』の表記は、韻尾 -ng の消失を表示しているが、主母音が鼻音化することは表示していない。

④ 韻母が i, ü

| 韻母の交替 | 基礎音節の仮名 | r 化語 | r 化音節の仮名 |
|-------|-----------------|-------------------|------------------|
| i>iər | リ ⁴⁵ | 裏兒 | リ ^エ ル |
| | チー | 小雞兒 | チ ^エ ル |
| | チー | 幾兒 | チ ^ル |
| | ピー | 信皮兒 | ピ ^エ ル |
| ü>üər | ニ | 姪女兒 ⁴⁶ | ニ ^エ ル |
| | ニ | 孫女兒 | ニ ^ル |

「i」「ü」を主母音とする韻母は、r 化する時にもとの音節に「ər」音を加える。『合璧』では、主母音が「i」である r 化語の表記に3つの形式がある。「裏兒」は、r 化韻の仮名表記は「ール」を加え、「幾兒」は長音を消して長音「ル」を加え、「小雞兒」と「信皮兒」は「ル」のみを加える。

「ü」を主母音とする韻母の r 化の表記には、「ル」または「ール」を加える2つの形が見られる。

このように、「ール」が「r」と区別する「ər」音を表しているとするならば、作者は主母音「i」「ü」を含む韻母が r 化する時の特別の音交替に、ある程度の注意を払っていたことになる。

⑤ 韻母が舌尖母音 i

| 韻母の交替 | 基礎音節の仮名 | r 化語 | r 化音節の仮名 |
|-------|---------|------|------------------|
| i>ər | ツ、ツ | 雞子兒 | ツ ^ル |
| | チー | 戒指兒 | チ ^エ ル |
| | チー | 姪兒 | チ ^エ ル |

「i」で終わる韻母が r 化すると「-i」が読まれずに「ər」音をつける。

韻母が舌尖母音 i である音節では、仮名表記で長音符号がついている。r 化すると、『合璧』はもとの韻母の上に「ル」を加える。

こうすると、「ər」を示す長音表記で示している。

- ⑥ 韻母 a、o、e、u、ia、ua、ao、ou、uo、iou は r 化すると、主母音が変わらず「r」が加わる

| 韻母の交替 | 基礎音節の仮名 | r 化語 | r 化音節の仮名 |
|--------|----------------|---------|--------------------|
| a>ar | ター | 汗褌兒 | ター ^ル |
| | | 那兒 | ナー ^ル |
| | マー | 碼兒 | マール |
| o>or | | 茶葉末兒 | ‘モール |
| e>er | ‘コー | 哥兒們・個兒 | ‘コー ^ル |
| | ‘コー | 鸚哥兒 | ‘コル |
| | コ‘ー | 下巴頰兒 | ‘コル |
| | ‘ホー | 墨盒兒 | ‘ホール |
| | | 這兒 | ‘チ ^ョ ール |
| u>ur | フー | 媳婦兒 | フール |
| | ホワー | 鼻煙壺兒 | ‘ホ ^ウ ール |
| | ツ〇ー | 家兔兒 | ツ〇ール |
| | シ ^ウ | 松鼠兒 | シ ^ユ ール |
| | シ ^ウ | 歲數兒 | シ ^ウ ル |
| ao>aor | タウ | 道兒・刀兒 | タウ ^ル |
| | マウ | 貓兒眼 | マウ ^ル |
| | ツァウ | 棗兒 | ツァウ ^ル |
| | | 羊羔兒 | カウ ^ル |
| ou>our | ‘トウ | 兜兒・山葯豆兒 | ‘トウ ^ル |
| | ‘トウ | 老頭兒・頭兒 | ‘トウ ^ル |
| | ‘ホウ | 猴兒・時候兒 | ‘ホウ ^ル |
| | | 門口兒 | ‘コウ ^ル |
| ia>iar | シヤー | 下兒 | シヤール |
| ie>ier | シエー | 歇歇兒 | シエ ^ル |
| | チエー | 姐兒們 | チエール |
| | チ〇エー | 蝴蝶兒 | チエール |

| | | | |
|----------|------------------|------|--------------------|
| ua>uar | ‘ホワー | 花兒洞子 | ‘ホ ^ワ ル |
| | ‘ホワー | 花兒匠 | ‘ホ ^ワ ール |
| uo>nor | | 錯兒 | ツ ^ノ ール |
| | | 多兒錢 | ト ^ノ ル |
| iou>iour | リュウ | 溜兒 | リ ^ユ ル |
| | チ ^ユ ー | 球兒 | チ ^ユ ル |
| | ニユウ | 妞兒 | ニユール |
| | ニユウ | 小妞兒 | ニ ^ユ ウール |
| üe>üer | チヤウ | 家雀兒 | チヤウ ^ル |

この表からみると、大部分の韻母が r 化する時に大きいまたは小さい「ル」を加え、音交替の規則に従っている。ただし、3つの特殊な現象があり、音交替の規則に違反している。

- ① 「哥兒」、「頰兒」、「歇兒」、「球兒」はもとの長音を取って「ル」を加える。
- ② 「鼠兒」、「妞兒」は「ール」を加える。
- ③ 「溜兒」はもとの仮名「ウ」を消して「ル」を加える。

それに、r 化韻の仮名表記には大きい「ル」と小さい「^ル」が見られるが、書き分けの条件は見いだせない。

3 明治・大正期における日本人の r 化音への認識諸相

3.1 明治・大正期の日本人の r 化音への認識諸相

明治・大正期の北京官話学習書における r 化語の状況について、筆者は約30点の資料を調べた結果、r 化語について記載があるのは12点であった。以下にそれらの書名、著者と出版年を挙げ、具体的な記載を紹介する。

『日清会話』 参謀本部

明治27年（1894年）

『支那語独習書』 宮島大八

明治33年（1900年）
 『清語会話案内』西島良爾
 明治33年（1900年）
 『清語教科書』西島良爾
 明治34年（1901年）
 『四声標註支那官話字典』西島良爾・牧相愛
 明治35年（1902年）
 『支那語辭彙』石山福治
 明治37年（1904年）
 『初歩支那語独修書』原口新吉
 明治38・39年（1905、06年）
 『清語正規』清語学堂速成科明
 明治39年（1906年）
 『日華語学辭林』井上翠
 明治39年（1906年）
 『支那語独習全書』石山福治
 大正2年（1913年）
 『最新実用支那語教科書』西島良爾・林達道
 大正4年（1915年）
 『実用支那語教本：北京官話』本田清人
 大正6年（1916年）

(1) 『日清会話』

『日清会話』のなかで、「兒」字の本来の発音の仮名表記は、「兒（アル）子」の例からみると「アル」である。r 化音では、普通直接「ル」を付け加えるのみで、音交替の規則が反映しているのを見出し得ないが、時々仮名に変化がみえる。

小孩（ハイ）子 → 女孩（ハー）兒
 好（ハオ）好（ハーオ）兒的
 等（ターン）一等（ター）兒

しかし、r 化音の仮名の変化は統一していない。例えば、「女孩兒」は以上の表記方法のほか「女孩（ハイー）兒」もある。

(2) 『支那語独習書』

本書では、「[○]兒（アル）子」のように、非 r 化語の場合は「兒」を第2声の声調表記と「アル」で表示する。「鳥[○]（ニャオ）[○]兒（ル）」のように、r 化語の場合は「兒」が第2声のままだが、仮名は「ル」に変わっている。「響聲（シヨヌ）兒」、「請吃點[○]（デェン）[○]兒（ル）點[○]（デェン）心」のように、r 化語においても「n」「ng」に対応する「ン」と「ヌ」を削除せず、音声交替を反映させていない。

(3) 『清語会話案内』

本書には四声が付いていない。r 化語が豊富に見られる。r 化語の品詞は名詞が一番多く、動詞、形容詞、副詞もある。「兒」は非 r 化語では、「過繼兒（アル）子」のように「アル」によって表音され、r 化語の場合韻母に関わらず「ル」を採用するのが圧倒的多数である。ただ「レ」「ール」「ヌレ」等で記した例外が5つだけ見られる。

跑堂（タン）兒（レ）的
 杏（シン）兒（レ）
 砍（カヌ）肩（チエ）兒（ヌレ）
 變戲法（フワ）兒（ール）的
 花（ホワ）兒（ール）匠

これらは印刷上の間違いと判断した。前の3例と同じ韻母を持つ字は「幫忙（マン）兒（ル）的」、「房頂（デン）兒（ル）」、「飯館（コワヌ）兒（ル）」のような表記が一般的で、即ち「レ」は「ル」、「肩（チエヌ）」と「肩」にあるはずである。「法兒」・「花兒」においても、例えば「一枝花（ホワー）兒（ル）」の例に見られるように、「ール」の長音符はそれぞれ前の「花」、「法」にあるべきものである。

一方、主母音や韻尾の音交替は、大部分の例に反映されていない。

澡堂（タン）子→跑堂（タン）兒的
眼（エヌ）睛→肚臍眼（エヌ）兒
花（ホワー）子→一枝花（ホワー）兒
小雞（チー）→小小雞（チー）兒

「點」「今」は r 化に伴って仮名表記に変更が加えられ、例外的である。

慢着點（デ）説→查點（デヌ）兒
小心點（デ）兒
比我矮一點（デアー）兒
今（チヌ）天→今（チン）兒

r 化ではない場合の「點」は、韻母「ian」の韻尾「n」に当たる「ヌ」がみられず、r 化すると「查點兒」では「ヌ」を加えるが、「小心點兒」「比我矮一點兒」では「ヌ」をつけない。「今」は「チヌ」が r 化によって「チン」と変わるのが理解できない。

(4) 『清語教科書』

本書において、声調について「聲音ノ變化」に「去聲同字重複シ語尾ニ虛字「兒」ヲ有スルトキハ中ノ字ヲ上平ニ變聲スベシ⁴⁷」という解説がある。すなわち、第4声の単音節語が重複して成る疊語は、r 化すると、2 番目の音節は第1声になるという。しかし、変調規則では、形容詞の疊語は r 化すると2 番目の音節は第1声になるべきだが、第4声の単音節語から成る疊語に限られない。それで、本書の r 化による変調の解説は不完備である。

r 化語の表音について、「過繼[○]兒（オル）子」「太陽冒嘴[○]（ツイ）[○]兒（ル）」のように、「兒」の仮名を「オル」から「ル」と変え、

声調は第2声と表記し、音交替を表していない。

(5) 『四声標註支那官話字典』

『四声標註支那官話字典』は字典と冠されているが、一字から句まで見出しとして並べる。r 化語の数は多い。r 化する前の品詞は、名詞が一番多いが、動詞の「竟貪玩兒」「打顛兒」「擺設兒」なども豊富にみえる。「兒」は r 化語尾でない場合、「過繼兒子（コオーチイオルツ）」のように「オル」で表音する。r 化語の場合は「字眼兒（ツウエヌル）」のように「ル」となる。-n（「ヌ」）、-ng（「ン」）の脱落現象は発音表記に現れていないことが確認できる。

(6) 『支那語辞彙』

『支那語辞彙』は中日字典であり、本文は495頁で、頁ごとに均等に10語の見出しが見られるので大体4,950の語数を収録している。そのうち、r 化語はたまにしか見当たらない。数えたところ語数は僅か138で、全部の語の2.7%ぐらいを占める。ここまでに取り上げた教科書、字典の積極的に r 化語を収録している様子とは異なり、石山が字典にはできれば口語より文語を登録しようと考えたか、と推測できる。

『支那語辞彙』は「兒」字を説明する時に、「息子、小兒、名辭と結合して其意味を完全にするに用ひらる」と書いているように、「兒」の「語尾」としての用法を意識していたことがうかがえる。「兒」は第2声、「ア[○]ル」を以て注音され、r 化語にあっても不変で、同様に扱っている⁴⁸。大正10年改訂版の『支那語辞彙』もこれを継承した。

(7) 『初歩支那語独修書』

『初歩支那語独修書』の「音の變化」の部

分では、「(〇兒) 只字音ヲ發スルノミニテ無意義ニ名詞ニ附セラル、者甚ダ多シ此場合ノ(〇兒) ハスベテ上平ニ變ズ」と解説している。また、「子供」を意味する場合は「〇兒ハ字義ヲ有ス故ニ四聲ヲ變化セズ」(傍線は原文のまま、以下同じ。)であるために「〇兒子」と読むのに対して、r 化語の「〇今兒^{オエル} ●村兒^{ツヨエ} 〇花兒^ル」は「三ツノ名詞ニ附セラルタル〇兒ハ只ルノ音ヲ發スルノミニテ何タル字義ヲ有セズ故ニスベテ上平ニ變ス」と、例を挙げながら説明している。

文法の部分では、r 化についての記載もある。

「兒」

本来の意義を為すときに四聲「下平」にして「アル」の音なり

此例に用いられる、場合此字の上に音脚(ン) 若くは(ヌ) を有する文字の在るときには其(ン) 或は(ヌ) は消え去りて發音せず左の例の中に其形あり、特に注意せよ 例：猴兒 棗兒 勁兒……⁴⁹

本書に載せている r 化語をみると、「兒」は r 化語では「ル」で音を表記する。韻尾が -n である時 r 化韻の仮名表記は音交替の規則に従う。韻尾が -ng であると、-ng に対応する「ン」を取り「ル」を加えるのは、主母音の鼻音化を反映していない。「兒」の声調について、「上平(第1声)に変へる」と規定している点には誤りがある。「兒」は前の韻母に影響を与えた同時に、自身も併せて一音節になってしまうので、声調は前の字の声調に従うこととなる。第1声に変わるとは限らないのである。

(8) 『清語正規』

『清語正規』の序文には清語学堂の長であ

る原口新吉の署名がある。『初歩支那語独修書』と同じく原口が関わる書だからだろうか、2冊の教科書は重なる内容が多く、r 化語についての記載と用例も殆ど相違がない。r 化語の性質について、『清語正規』の「四聲の變化」に、

(〇兒) は只其字音を残するのみにて無意味の助詞として或名詞に附加せらるる場合甚だ多し、此の如き場の(兒)(子)の四聲は總て上平に變じて可なり⁵⁰

例： ●村兒^{ツヨエ} 〇花兒^ル

と書いている。「兒」を、「子」と共に助詞と定義している。r 化は本質的に一種の形態音韻論的現象で、「子」は接尾語である。さて、「兒」を加える理由は、後文の「無意味の加字」で、

清語には同音の字多きが故に名詞の一字より成るものは四聲のみにては其何たるを判別し難きこと多し。故に一字若くは二字より成る名詞には無意味の字を加え…

例： 蓋^カ〇兒^ル 猴^{ホウ}〇兒^ル 海^{ハイ}〇邊^{ビエ}兒^ル
外^{ワイ}〇套^{タオ}兒^ル

と説明している。ここはただ名詞の場合の理由を述べるにとどまる。r 化に実質上の意味がないのは事実であるが、意味を変えたり、動詞を名詞に変えたり、語気を和らげたりする文法上の意味があるはずだ。

『清語正規』は、r 化の場合の「兒」の声調を第1声に変えるとの説明が『初歩支那語独修書』と同じである。「兒」の仮名が r 化語で「アル」から「ル」と変えている。r 化された音交替について、『清語正規』は韻尾が「n」「ng」の場合は、韻尾が削除され、主母音が捲舌母音化する規則を特別に扱って

いる。

(9) 『日華語学辞林』

『日華語学辞林』は井上翠により、権威ある工具書として広く利用されていた⁵²。その中には、r化語も大量に収録されている。「兒」の項目で「[○]兒 (ÉRH・アル) 息子。小兒。名詞代名詞ノ接尾語トシテ用ラル。」と解釈しているように、井上はr化語の言語現象についてよく知っている。r化語における「兒」の表記は、仮名は「アル」ではなく「ル」となるが⁵³、声調表示は第2声のままである。「心眼 (イエヌ) 兒」「杏 (シン) 兒」のように、仮名による音交替を試みた形跡は見当たらない。

(10) 『支那語独習全書』

『支那語独習全書』は理論を主にし、用例が少ない。音韻、四声の知識を章立てしているが、r化語を特別に説明してはいない。ただ、「去聲音の同字が相連りて、其次に「兒」を有する時は次の一字が上平音に變ずること⁵⁴」の記述が見られる。例えば、

快●●快[○]兒(ル)的⁵⁵ 慢○○慢[○]兒(ル)的

である。これはしかし、これはしかし、r化語の音交替規則では、形容詞の疊語で2番目の音節は第1声になり、第4声の単音節語から成る疊語に限られない。本書のr化による変

調の解説は不完備である。

『支那語独習全書』では、r化語は音交替の現象が表されていない。「兒」の仮名表記の変化と疊語以外の「兒」の変調は見られる。「[○]兒 (アル) 子」、「小[○]孩[○]兒 (ル)」からみると、「兒」は「アル」から「ル」に、第2声から第1声に変わる。

ほかに、「那。(ナ) 個→那。(ナ) 兒 (ル) 有他的」「那[○] (ナー) 個 (イコ) →那[○] (ナー) 兒 (ル) 有偈們的⁵⁶」の「那」は長音により声調を区別していること⁵⁷が窺える。

(11) 『最新实用支那語教科書』

『最新实用支那語教科書』は語を表音せず、r化語については「去聲同字重複シ語尾ニ助辭「兒」ヲ有スル場合ハ中ノ字ヲ「上平」ニ變聲スル⁵⁸」と解説している。この記述は上の(4)と(10)の教科書に見られるものと同じである。

(12) 『实用支那語教本：北京官話』

本書の「語法大要」ではr化された韻母の音交替について「[○]今[○]兒 [○]明[○]兒ノ如ク[○]兒ノ上ニヌ若クハ[○]即チ (n) 若クハ (ng) ト云フ窄音又ハ寬音ヲ冠リタル場合ハヌ若クハ[○]ハ響カザル音トシテ直チニアルト發音スルヲ普通トナセリ⁵⁹」とある。本文はローマ字はウェード式で表音しており、単語部分に載せている計43個のr化語をみると、表音上、「今 (chin) 天 = [○]今 (chin) [○]兒 (erh)」

rh の前の韻母⁶⁰：

| 韻母 | o | ou | an | en | ai | ao | e | iu | ie | ua | ang | eng |
|----|---|----|----|----|----|----|---|----|----|----|-----|-----|
| 回数 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 4 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 |

erh の前の韻母⁶¹：

| 韻母 | o | e | i | ü | ao | uo | ou | an | en | i | n | un | ang | ing | ong |
|----|---|---|---|---|----|----|----|----|----|---|---|----|-----|-----|-----|
| 回数 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 |

のように、r 化された音交替が見られない。「兒」の表音は、21例が「rh」、22例が「erh」で記されているように異なっている。「rh」は韻尾 n、ng を持つ韻母に、「erh」はそれ以外の韻母にそれぞれ接続する形であると予想されるが、調べると以下の結果となり、規則が全くない。

『实用支那語教本：北京官話』はウェード式を用いて発音を表記しているとみえるので、ここでは『語言自邇集』に見られる r 化語表記に調査の手を伸ばしてみよう。そこでは、「兒」は単音節である時「êrh2」で注音されるが、r 化語ではすべて「rh」と注音されている。「這 (cê4) 兒 (rh)」、「昨 (tso2) 兒 (rh)」のように、「兒」は単音節から直前の韻母と融合して r 化音となり、声調もそれに従うことを表示している。それで、『实用支那語教本：北京官話』はウェード式を継承しているが、『語言自邇集』の正確な記述をすべて吸収してはいないことがわかる。

以上の12点の資料を調査した結果、r 化語では「兒」の変調について考察することが必要であると考え。(7)、(8)の教科書では、「兒」が統一的に第1声に変わると言っており、(4)、(10)、(11)は4声の字が作る疊語の r 化語では「兒」が第1声に変わると説明している。実は、疊語の場合は2番目の字が第一声になるので、「兒」も一緒に一声になるといえるのは正確である。しかし、それ以外の場合は、「兒」は直前の字の四声に従うべきである。このように、明治・大正時代に、日本人が r 化語における「兒」の変調に気づいたが、変調規則がまだ把握できていなかったと思われる。

3.2 『日漢英語言合璧』の r 化音の位置づけ

以上の考察を通じて、『合璧』の r 化音についての表記は、明治・大正時代の教科書と

辞典の中で先進的な位置にあると結論できる。以下、『合璧』を含む13点の書籍を考察した結果を表にする。

そのうち、関わる内容がないのは空欄、「項目」欄の記述が当てはまるものは○、当てはまらないものは×をそれぞれ記す。→を以て変化を表し、=を以て不変化を表す。説明が必要な場合は注をつける。

この表からうかがえるように、『合璧』は r 化音の表記と音交替の規則に従っている精密さがみられ、最も先進的である。『初歩支那語独修書』と『清語正規』も r 化の音交替の知識を把握していた。彼らの r 化への認識は、明治・大正期において希有と言える。

一方、大部分の北京官話学習書において r 化に伴う仮名表記の変更が見られないのは、それを意識しないか、或は意識しても注音に実践せずに終わったと考えられるが、先行する『合璧』などの先進的な扱いを継承しなかった。その著者の宮島大八、西島良爾、牧相愛、井上翠、石山福治など、中国語の教育領域で活躍していた人士であっても、r 化語への認識が薄く、本格的な研究を展開しなかった。

まとめ

『合璧』の仮名表記を考察した結果、『合璧』はほぼ完璧に発音を表しうる仮名表記系統をもっている。発音表示符号でも、韻母の仮名表記でも、r 化語の仮名表記でも、一定の規則が見出せる。発音表示符号について、『合璧』の作者は日本語にない中国語の発音に目を向け、真剣な考察をしていたようにみえる。r 化音の音交替の仮名表記は、殆ど音韻学上の規則に従っている。

明治・大正期の r 化語の記録が見られる他の12冊を調査したところ、大部分の日本人の

r 化語と r 化音に対する認識における科学性が乏しい中、『初歩支那語独修書』と『清語正規』はやや優れるといえる。韻尾の条件による r 化の音交替は明治・大正時代の日本人がまだ踏み込んでいなかった未知の領域であろう。『合璧』に見られる r 化音の音交替の認識は、それらと比べると、当時最高の水準にある。残念なことに、『合璧』の r 化音についての記載はそれ以後の教材に影響を与

えることがなかった。

明治・大正期の中国語学習教材は膨大であるので、r 化音についての記録は筆者の調べたもの以外にも必ず残っているに相違ない。それらから見られる r 化韻への認識と学習方法はどうか、また昭和時代に入ると進歩があるか。こうした問題を以後の課題とする。

| 項目 | | 書名 | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|---------------------------|-----------------|----------------------|----------------------|----------|---------|------------------------|---------|-----------------|-----------------|----------|-----------|--------------|-----------------|
| | | 『日清会話』 | 『日漢英語言合璧』 | 『支那語独習書』 | 『清語会話案内』 | 『清語教科書』 | 『四声標註支那官話字典』 | 『支那語辞彙』 | 『初歩支那語独修書』 | 『清語正規』 | 『日華語学辞林』 | 『支那語独習全書』 | 『最新実用支那語教科書』 | 『実用支那語教本…北京官話』 |
| r 化語尾「兒」の発音、表記、声調 | 単字音「er」 ↓ r 化音「r」 | ○アル↓ル | ○アル ⁶² ↓ル | ○アル ⁶² ↓ル | ○アル↓ル | ○オル↓ル | ×アル ⁶² アル | ○オル↓ル | ○アル↓ル | ○アル↓ル | ○アル↓ル | ○アル↓ル | | × |
| | 前字と合体して記す | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | | × |
| | 第2声 ↓ 前字に従う | × | ○ | ×2 2 | | ×2 2 | | ×2↓2 | ×2↓1 | ×2↓1 | ×2 2 | ×2↓1 | | |
| r 化音交替 | 韻尾 n n が脱落 | × ₆₃ | ○ | × | × | × | × | × | × ₆₄ | ○ | × | | | ○ ₆₅ |
| | 韻尾 ng ng が脱落 | × ₆₆ | ○ | | | | × | × | × | ○ | ○ | | | ○ |
| | | 前の韻母が鼻音化 | × | × | × | × | | | × | × ₆₇ | × | × | | × |
| | 韻尾 i i が脱落 | × ₆₈ | ○ | × | × | × | × | × | × ₆₉ | × ₇₀ | × | | | × |
| | 韻母 i, ü er を加える | × | ・ | × | × | × | × | × | × ₇₁ | × ₇₂ | × | | | × |
| | 舌歯音 -i -i を削除し er を加える | × | × | × | × | × | × | × | × | ・ ₇₃ | × | × | | × |

注

- ¹ ここで参考したのは『中国語教本類集成』（第三集第二巻）に収録されている複製版である。原文は「[兒]érh2,also meaning son, is used in the same way as frequently as tzü; in Pekingsese, more frequently…」である。つまり「兒」は「息子」の意味である同時に、接尾語「子」と同じ使い方もある。特に北京語で頻繁に使用されている。（『中国語教本類集成』第三集第二巻、p.395）
- ² 『日本明治時期北京官話課本詞彙研究』厦門出版社、2014年、p.259。
- ³ 鄭永邦（1863-1916）唐通事の家柄、明治・大正時代の外交官。「北に鄭あり、南は御幡」と言われるように、明治時代中国語の両巨頭の一人と称えられている。（六角恒廣『漢語師家伝 中国語教育の先人たち』東方書店、1999年、p.128）
- ⁴ 呉大五郎（1862-?）唐通事の家柄、明治時代の外交官。北京に留学したのち、外務属となりボンベイ領事、三井物産の支配人などを務めた。（渡辺慎治『天才乎人才乎：現代実業家月旦』東京堂、1908年、pp.170-172）
- ⁵ 趙傑『北京話的滿語底層和“輕音”“兒化”探源』北京燕山出版社、1996年、pp.231-232。
- ⁶ 利用された資料は『官話指南』（1881）、『英清會話自学入門』（1885）、『日漢英語言合璧』（1888）、『北京官話談論新篇』（1898）、『支那語学校講義録（第1～7号）』（1901-1902）、『清語讀本』（1902）、『燕語生意筋絡』（1903）、『言文対照北京紀聞』（1904）、『北京官話实用日清會話』（1904）、『官話急就篇』（1904）、『日清會話語言類集』（1905）、『日華會話筌用』（1905）、『实用日清會話』（1905）、『北京官話常用用例』（1905）、『清語正規』（1906）、『北京官話清国民俗土産問答』（1906）、『最新清語捷徑』（1906）、『官話応酬新篇』（1907）である。
- ⁷ 『日本明治時期北京官話課本詞彙研究』厦門出版社、2014年、p.259。
- ⁸ 『日漢英語言合璧』語音教学研究』（吉林大学修士論文、2007）
- ⁹ 原文は「礦（或）窰」で、日本語の説明は「礦山」であり、(p.16) 仮名表記「コン」から見ると「gong」と読んだはずである。『現代漢語詞典』（第五版 p.796）では、「礦、旧読gōng」と記されている。
- ¹⁰ 作者は例文で、字の上に横線を引くことによって有気音を表示するという説明があるが、本文には横線が引かれていない有気音も見られる。「庫」（p.51）の上には横線がない。本論では読みやすいために、横線を仮名表記の下で引くことにする。
- ¹¹ この仮名表記に出ている r 化を表す仮名「ル」

- は印刷上の間違いのはずである。
- ¹² 「zhen」という音である字のほとんどは「チエヌ」と記されているが、「疹」字は「チエヌ」と記されている。
- ¹³ 「麼」は多音字で、『合璧』では2つ発音も出ており、それぞれは①「没什麼（モ）了（p.81）」、「這麼（モ）着（p.82）」などで、現在の漢語拼音方案で「me」と読める：②「你知道麼（マ）（p.82）」、「你吃烟麼（マ）（p.83）」などで、現在の漢語拼音方案で「ma」と読める。
- ¹⁴ 韻母「ou」の発音は日本語の「オ+ウ」と似ているが違っている。韻母「ou」の音声表記は[ou]であり、日本語の「オ+ウ」の音声表記は[ou]である。
- ¹⁵ 凡例の例では「チ[○]エヌ」と書いているが、正文では「チ[○]エヌ」と書いている。
- ¹⁶ この音節の字はほとんど仮名表記「^ˇシウ」を採用しており、例えば「薯、樹、叔、梳、書」などがそうである。「^ˇシウー」を採用しているのは「數」だけである。
- ¹⁷ この音節の字の大部分は仮名表記「^ˇシオウ」を採用しており、例えば「瘦、獸」などがそうである。「^ˇシオウ」「^ˇシヨウ」を採用している例はそれぞれ「手」「熱」だけである。
- ¹⁸ この音節の字の大部分は仮名表記「^ˇシウイ」を採用しており、例えば「誰、税」などがそうである。「水」は2つの形をもっている。1つは「水（^ˇシウイ）盆」（p.29）のようであるが、2つは「水（^ˇシウイ）缸」である。
- ¹⁹ 原文の例は「茅廁」（『日漢英語言合璧』p.25）であるので、「廝」などの誤字だと思われない。
- ²⁰ 「鶴」は文語音で「he」と読み、口語音で「hao」と読む。仮名表記の「ハウ」によっては「hao」と読むはずである。同時期の『日華語学辞林』（井上翠、1906年、p.157）でも「鶴（ハオ）hao」と注音されている。
- ²¹ 「蘋果」（『日漢英語言合璧』p.40。）
- ²² 「虹」の発音は仮名表記によると古い発音の「gang」である。
- ²³ 「那」の発音の仮名表記は「ナー」のはずであるが、「ナーイ」とするのは「那一個」という語源から変わってくるからと思われる。
- ²⁴ 「道」の発音の仮名表記はほとんど「タウ」である。「タウル」は r 化を表したもので、「小道」（『日漢英語言合璧』p.17）の「道」の表音に見られる。
- ²⁵ 「胖」は多音字である。「パヌ」によると「pan」と読むはずである。
- ²⁶ 1.1の（7）を参考。
- ²⁷ 「血」は多音字であり、仮名表記によると「xue」

と読むはずである。

- ²⁸ 「雀」の発音は仮名表記によると「qiao」である。『現代漢語詞典』（第五版・p.1098）によると「qiao」は口語音である。「孔雀」（『日漢英語言合璧』p.46）という単語に見られる。
- ²⁹ 「撒頭魚」（『日漢英語言合璧』p.48。）
- ³⁰ 「春天」（『日漢英語言合璧』p.11。）
- ³¹ 杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語40回』白帝社、p.10。
- ³² 例はそれぞれ「待會兒」「坐會兒」である。
- ³³ 「分兒」は「份兒（分）」の意味で、現在は「份兒」と書く。原文の1つの例として「給我們預備三分兒飯（三人前出シテケダサイ）」がある。
- ³⁴ 「下兒」は時間を指し、原文は「我想現在兩下兒鐘罷（今二時ダロート思ヒマス）」である。
- ³⁵ 「點兒」は動詞または形容詞の後に使用される。原文の例は以下のものである。
- a動詞+點兒：喝點兒 快著點兒 慢著點兒 壓點兒
打點兒水 淡點兒 要點兒 用點兒
布點兒 拿點兒 有點兒 吃點兒 暖
着點兒 有點兒 便宜點兒 放點兒
有點兒 鉸點兒 使點兒
- b形容詞+點兒：好點兒 晚了點兒了 肥點兒了
好點兒 貴點兒 慢點兒 晚點兒
- ³⁶ この「那兒」は「哪兒（どこ）」の意味で、原文の1つの例として「他在那兒住（何處ニ彼人ハ住デオリマスカ）」がある。
- ³⁷ この「那兒」は「そこ」の意味で、原文の1つの例として「咱們快到那兒了（モー程ナク彼處ニ着マセフ）」がある。
- ³⁸ 「様兒」は「種類、タイプ」などの意味で、原文にある文は「我有好些様兒／我們有好些様兒價錢的／這兒有幾様兒／兩様兒／時様兒／那様兒」である。そのうち、「那様兒」の意味は「哪様」と同じ、原文は「您要那様兒罷（何方ガ御入用デゴザイマスカ）」。
- ³⁹ 賈采珠、1990年、新華書店北京發行所。
- ⁴⁰ それらは「等一等兒」、「待一待兒」、「靜靜兒」、「飯片兒」である。「等一等兒」と「待一待兒」は「A—A」重ね型の動詞である。この類のr化語は、『北京話兒化詞典』には4つしか見られない。「靜靜兒」は「AA」重ね型の形容詞である。この類は『北京話兒化詞典』にも少ない。
- ⁴¹ 本文は字の上に注音しているが、本論文は読みやすいように字の右に書き出すことにする。
- ⁴² 1つの例外として「鸚哥（コ）兒（ル）」があるが、印刷の間違いと考えられる。
- ⁴³ r化語の仮名表記が多数ある場合は、主流の表記を記入する。
- ⁴⁴ r化する前の音節の仮名表記と指す。

- ⁴⁵ 「裏」の仮名表記は「リ」であるが、同じ音節を持っている字（「荔、狸、利、籬、蠣」など）はすべて「リー」と表示されている。
- ⁴⁶ 「孫女（ニル）兒」など長音符号を加えない例も見られる。
- ⁴⁷ 『清語教科書』 p.18。
- ⁴⁸ 見出しの一字の後ろに、数語を並べると見出しの音が省略される。故に、r化語の音交替が窺えない。
- ⁴⁹ 例えば、見出し「紋ウエン」の用例である「紋兒」は、ただ「兒」を「ア^oル」で注音し、「紋」の音を注していない。
- ⁵⁰ 初歩支那語独修書』p.21。
- ⁵¹ 『清語正規』p.12。
- ⁵² 『清語正規』の「音の別」（p.7）、『初歩支那語独修書』の「有氣音と無氣音の別」（p.6）による。
- ⁵³ 六角恒廣『漢語師家伝 中国語教育の先人たち』東方書店、1999年、p.261。
ただし、「小兒」の「兒」が「ル」と表音され、著者の間違いと思われる。
- ⁵⁴ 『支那語独習全書』 p.77。
- ⁵⁵ 『支那語独習全書』は○を以て、字の四隅に付けて四声を表す。●は有氣音を表示する。
- ⁵⁶ 『支那語独習全書』p.79。
- ⁵⁷ 「那」が第3声の場合は「何処」を意味し、第4声の場合は「そこ」を意味する。
- ⁵⁸ 『最新実用支那語教科書』p.8。
- ⁵⁹ 『実用支那語教本：北京官話』p.12。
- ⁶⁰ 「rh」で表音されているのは「坡（p'o）兒」「村莊（chuang）兒」「擺渡口（k'ou）兒」「海灣（wan）兒」「犄角（chiao）兒」「鳥（niao）兒」などがある。
- ⁶¹ 「erh」で表音されている語には「山澗（cheien）兒」「昨（tso）兒」「前（chien）兒」「三十（shih）兒」「虫（ch'ung）兒」などがある。
- ⁶² 1つの例外「鸚哥（コ）兒（ル）」がある。
- ⁶³ 規則に従っている例には「茶盤（パー）兒（ル）」、「一點（ディエ）兒（ル）」、「前（チエ）兒（ル）」があり、規則に従わない例には「打盹（トウエーヌ）兒（ル）」、「伴（バヌ）兒（ル）」、「紐襷（バヌ）兒（ル）」、「茶罐（コワヌ）兒（ル）」がある。
- ⁶⁴ 規則に従っている例には「海邊（ピエ）兒」、「茶館（コワ）兒」などがあり、規則に従わない例には「煙捲（チュワ）兒（ル）」（「捲」の仮名表記は「チュアン」）などがある。
- ⁶⁵ この場合の「ヌ」が脱落する記述があるが、r化語の注音に現れていない。
- ⁶⁶ 規則に従う例には「様（ヤー）兒（ル）」、「火虫（チ^oョー）兒（ル）」などがあり、規則に従わない例には「勁（チーン）兒（ル）」、「地方（ファ

- ン) 兒 (ル)」などがある。
- ⁶⁷ 主母音が鼻音化し、韻尾「ng」が削除される規則に従う例は「取燈 (トオ) 兒 (ル)」(「燈」の仮名表記は「洋燈 (トン)」) があり、韻尾「ng」が削除される規則にのみ従う例には「聲 (シヨ) 兒 (ル)」、「房頂 (ディー) 兒 (ル)」などがある。
- ⁶⁸ 規則に従う例には「女孩 (ハ) 兒 (ル)」があり、規則に従わない例には「一塊 (クワイ) 兒 (ル)」、「一塊 (クワイ) 兒 (ル)」がある。
- ⁶⁹ 規則に従う例には「蓋 (カ) 兒 (ル)」、「小孩 (ハ) 兒 (ル)」があり、規則に従わない例には「等一會 (ホイ) 兒 (ル)」がある。
- ⁷⁰ 規則に従う例には「蓋 (カ) 兒 (ル)」があり、規則に従わない例には「味 (ウォエ) 兒」、「一塊 (コワイ) (コワイ) 兒 (ル)」、「快 (コワイ) (コワイ) 快 (コワイ) (コワイ) 兒 (ル) 的」、「一會 (ホイ) (ホイ) 兒 (ル)」がある。
- ⁷¹ 韻母がüである例の中で、「孫女 (ニ、ユー) 兒」(「女」の仮名は「ニーイ)」が規則に従う。韻母がiである例の中で、「裏 (リー) 兒 (ル)」(同音字「禮」の仮名は「リー)」は規則に従わない。
- ⁷² 韻母がiである例の中で、「衣裳的裏 (リー) 兒 (ル)」が規則に従う。韻母がüである例は見られない。
- ⁴³ 規則に従う例には「瓜子 (ツー) 兒 (ル)」、「槍子 (ツー) 兒 (ル)」(「子」の仮名は「ツ)」などがあり、規則に従わない例には「樹枝 (チー) 兒 (ル)」(同音字「指」の仮名は「チー)」がある。